

11月13日9時00分からCRTで収録

大学では1回90分の授業につき、4.5時間の予習・復習が必要です

—小学生・中学生・高校生のうちから、すべての授業の予習・復習の学習習慣を—

開倫塾

塾長 林明夫

Q1：大学生は1回90分の授業につき、4.5時間の予習・復習が必要なのですか。

A：(1)はい、その通りです。大学は最高学府なので、1回90分の授業について、合計4.5時間の予習・復習が必要です。

(2)1週間に10教科を大学で学ぶ場合には、月～金で1日平均2教科です。1週間に合計45時間の予習・復習が必要です。

(3)7日間毎日、予習と復習をすれば、1日6.5時間ですが、土・日はお休みすると5日間になりますので、1日9時間の予習・復習となります。

(4)1日24時間のうち、睡眠時間(8時間位)と通学や授業時間(6時間位)を除いた残りの時間は10時間です。そのうちの6.5～9時間が「予習・復習」の時間となります。

(5)1週間に12教科を学習するなら、この1.2倍、14教科なら1.4倍の、予習・復習の時間が、大学では求められます。

**Q2：大学生はそんなにたくさん予習・復習をしなければならないのですか。**

A：(1)睡眠時間を削ったり、大学にいる間の時間や通学時間などを工夫したりして、大学生の皆さんは予習・復習の時間を確保しているようです。

(2)授業の数が少ない日や土曜日、日曜日、祝日には、一日中、予習・復習をしている大学生も、たくさんいます。

(3)一番賢い大学生は、その学期の授業が始まる前の2か月間の長期休暇の間に、次の学期に学ぶ教科のうちの何教科の教科書を、1冊予習しています。

(4)新学期が始まってから、数多くの新しい教科を、全部一斉に学ぶのは本当に大変です。ですから、たとえ何教科だけでも、学期が始まる前に予習しておこうというものです。素晴らしいと考えます。

**Q3：何だか、開倫塾がすすめている「GWが終わるまでに、新学年の教科書をたとえ半分、3分の1だけでも予習し終えよう」と似ていますね。**

A：(1)「新学期が始まる前に、教科書の最初の100ページの予習」をおすすめします。できれば全教科、1教科でも多く、予習しておくことをおすすめします。

(2)開倫塾で学ぶ小学生・中学生・高校生の皆様の多くは、高校卒業後に、大学、短期大学、専門学校、専修学校、大学院などに進学すると思います。

(3) そこでおすすめしたいのは、大学などに進学したあとで困らないように、小学生・中学生・高校生のうちから、たとえ短い時間であっても、「予習・復習」の「学習習慣」を身に付けてから「大学などに進学」することです。



(4) 「予習・復習」の「学習習慣」が身に着いていなければ、大学生になったからといって、急に、「長時間の予習・復習」をするのは無理だからです。

(5) 同時に、「予習・復習」の「大切さ(価値)」を知り、自分にとっての「意味」を考え、「具体的なやり方」を身に付けておくことが大切です。

Q 4 : 「予習・復習」の「大切さ(価値)」とは何ですか。

A : (1) 「予習」の「定義(ことばの意味・内容)」は、『授業』の内容を『予(あらかじめ)め、習(なら)う』ことです。



① まずは、「授業の内容」つまり、「教科書や資料」に書いてあることで、よくわからない語句があったら、辞書で調べ、ノートに書き写し、その場で覚えること。

② 「教科書や資料」に書いている内容を「一語一語」ゆるがせにしないで、「理解」することが大事です。

③ 次に、英語や国語の教科書は、スラスラよく読めるようになるまで「音読練習」すること。全教科、新しく出てきた語句や重要語句は、正確に書けるようになるまで「書き取り練習」をすること。算数や数学・理科などの「計算・問題」は、自分の力ですべてノートに解くこと。

④ そして、「全教科とも、何がよくわからないかをはっきりさせて授業に臨むこと」。これが「予習の目的」です。

(2) 「復習」とは、その日の授業内容を、テキストや資料、ノートなどを用いて思い出し、どのようなことかよく考える。計算や問題は、必ず、もう一度解き直してみる。「理解を深める」ことが「復習の目的」です。

(3) そして、時間を作って「予習・復習」をして十分に「理解」した内容を、「正確に身に着ける」ことが大事です。

① 声を出して読む「音読練習」、正確に書けるようにする「書き取り練習」をすること。

② テキストやノートの内容をスミからスミまで何も見ないで言える「暗唱(あんしょう)」や、何も見ないで書ける「暗記」にも挑戦すること。

③ 計算や問題は、パッパッパッと正解が出るまで何回も解く「計算・問題練習」をすることをおすすめします。

○ 定着のための3つ「練習は不可能を可能」にします。



Q 5 : 最後に一言どうぞ。

A : 小学生・中学生・高校生のうちから「効果の上がる学習方法」を身に付けてください。そうすれば、大学生になっても「予習・復習」で困りません。社会人になってからの勉強にも「予習・復習」は大切です。どうか頑張ってくださいね。